



追悼 せなけいこさん・谷川俊太郎さん
渡辺正範著『節黒城風雲録』刊行
杉浦充宜さんファッションショー報告
年末年始の休館日
12月29日(日)～1月3日(金)

「障害者週間」を知っていますか？ 12月3日～9日

12月3日から9日までは障害者週間です。これは、障害のある人の自立と社会参加を推進し、障害及び障害のある人に対する理解と関心を深めることを目的に1995年に定められました。国際障害者デーであり、障害者基本法の公布日である12月3日を起点とし、障害者の日である12月9日までの1週間を定めたものです。2004年の障害者基本法改正ではこの期間を障害者週間とする旨が明記され、2024年4月の障害者差別解消法改正では、民間の事業者による障害者への「合理的配慮」の提供が義務化されました。

「合理的配慮」とは、障害のある人の困りごとをなくすため、無理のない範囲で必要な配慮を行うことです。障害のある人も同じ条件で学び、働き、世の中のサービスを公平に受けるための、とても大切な考え方です。2006年、国連総会で障害者権利条約——世界中に暮らす障害のある人の権利を守るための条約——が採択されましたが、そのなかの「合理的配慮」(reasonable accommodation)という言葉は、「障害のある人自身が必要とするサポートを求めてもよい」ことを指しています。

日本では、2016年施行の障害者差別解消法で、行政機関による障害者への合理的配慮の提供が義務づけられました。機関のなかには公立図書館も含まれています。そして2019年6月には読書バリアフリー法が成立しました。正式名称を「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」というこの法律は、障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるための法律です。これも合理的配慮のひとつで、障害のある方が、利用しやすいかたちで本の内容にアクセスできることを目指しています。

読書が難しいというと、まずは視覚的な障害が挙げられます。「ディスレクシア」とよばれる、文字の読み書きが難しい発達障害のある人もいます。2018年には、本を持ち続けたり、ページをめくるのが難しい上肢障害のある人も法的に読書が困難と認められました。両目の焦点が合わせられない、瞼が下がってしまうなどの眼球使用困難症の人にも字を読むことは容易ではありません。これに寝たきりの人などを含めると、読書に障害のある人の数は全国で数百万人に及ぶと推定されます。

2023年、市川沙央(さおう)さんの『ハンチバック』(文藝

春秋)という小説が第169回芥川賞を受賞しました。「ハンチバック」とは、背中が曲がって弓なりになる病気や、その病気を患った人のことです。筋疾患先天性ミオパチーにより症候性側弯症を罹患し、人工呼吸器と電動車椅子を使って生活している市川さんが自身を投影した作品で、重い障がいのある主人公からみた日常が独自の視点から描かれています。

作中に主人公が紙の本を憎む場面がありますが、ふだん私たちの多くが何げなく行っている、目で見て、本を手で持って読むという行為が、障害のある人にとっては非常に難しい動作であることを痛感させられました。市川さんは、芥川賞受賞の記者会見で、「一番訴えたいのは読書バリアフリーが進んでいくこと。読みたい本が読めないのは権利侵害だと思うので、環境整備をすすめてほしい」と、電子書籍のさらなる普及などといった「読書バリアフリー」の推進を訴えました。

障害は、病気や事故などによって、この先誰にでも生じ得る身近なものです。日常生活におけるひとりひとりの配慮や工夫で、障害のある人の社会参加の機会が広がります。障害者週間をきっかけに、共生社会の実現のためにできることを考えてみませんか。

十日町情報館も、文字が読みにくい方から図書館の利用に障害のある方まで、どなたにも図書館や読書に親んでもらうためのバリアフリーサービスに努めています。大活字本や拡大読書器などをはじめ、読書に親しんでいただくための資料や機器も用意しています。ぜひ、実物を触って使い心地を体感ください。(小堺)



【参考文献】

- 『障害とバリアフリー』障害と本の研究会／編著、かもがわ出版、2022
- 『図解でわかる障害福祉サービス』二本柳寛／編著、中央法規出版、2022
- 『読書バリアフリー』読書工房／編著、国土社、2023
- 『読書バリアフリーの世界』野口武悟／著、三和書籍、2023
- 『ハンチバック』市川沙央／著、文藝春秋、2023
- 『読書のバリアフリーQ&A』公益財団法人文字・活字文化推進機構

編集・発行／十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム

〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1 TEL/025-750-5100 FAX/025-750-5103

「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。



ホームページ



Facebook

おまちしています



12月のテーマ図書

追悼・せなけいこさん

絵本作家のせなけいこ（せな・けいこ、本名：黒田恵子）さんが10月23日に亡くなりました。満91歳でした。

せなさんは1932（昭和7）年、東京府（現・東京都）生まれ。69（昭和44）年、37歳での絵本デビュー作『いやだいやだの絵本』（全4冊）で翌年にサンケイ児童出版文化賞を受賞。身近な包装紙などを切り貼りした温かみのある貼り絵が特徴で、ほかにも『あーん あーんの絵本』、『おおきくなりた』、『ばけものつかい』、『おばけのてんぷら』など、世代を超えて愛される数々のロングセラー絵本を生み出しています。



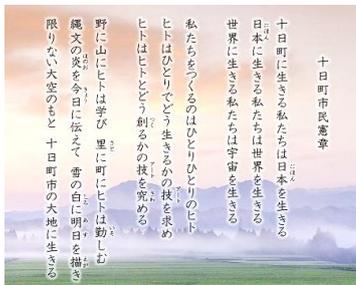
せなさんの追悼コーナーは、1階カウンター横です。

追悼・谷川俊太郎さん

日本を代表する詩人で、作詞や脚本、翻訳でも活躍した谷川俊太郎（たにかわ・しゅんたろう）さんが11月13日に亡くなりました。満92歳でした。

谷川さんは1931（昭和6）年、東京府（現・東京都）生まれ。52（同27）年に処女詩集『二十億光年の孤独』を刊行。みずみずしい感性とモダニズムが融合する詩的世界を構築し、散文詩から言語実験、日本語の音韻性に着目したひらがな詩まで幅広い詩作を行いました。また、歌の歌詞、脚本やエッセイの執筆、評論活動、映画製作、翻訳など、多方面で創作活動を展開しました。

十日町市では、新市誕生から10周年にあたる2015（平成27）年に「十日町市民憲章」を定めました。その文章は、募集した言葉をもとに谷川さんから起草していただいたものです。谷川さんの追悼コーナーは2階カウンター正面です。



児童向け

2024ねんのほん

『うちゅういちのたかいたかい』など、2024年に話題になった本を紹介します。

クリスマスがやってくる

『ねすごしたサンタクロース』など、クリスマスの本を紹介します。



一般向け

プレイバック2024

『サンショウウオの四十九日』、『信じ切る力』など、2024年に話題になった本を紹介します。

犯人はだれだ？

『可燃物』、『ルーマーズ俗』など、冬に読みたいミステリーを紹介します。



新着地域資料

『節黒城風雲録』 渡辺正範／著

「節黒城跡開山祭り」50周年記念事業実行委員会／編、2024.10

鎌倉時代末の1333（元弘3）年、討幕の旗を挙げた新田義貞のもとに真っ先に馳せ参じ、その中核となったのが大井田経隆を中心とする越後妻有の新田里見一族でした。その後の1352（正平7）年、義貞の跡を継いだ新田義宗により築かれたといわれるのが節黒城です。

節黒城跡保存会の50周年記念事業として、『節黒城風雲録～歴史を動かした越後妻有～』が刊行されました。著者は渡辺正範十日町市教育長です。愛知大学文学部の山田邦明教授（市内仁田出身、日本中世史専攻）は、「政治情勢や地域の文化などにも目を向け、新たな知見をふんだんに盛り込んだ大著」と評しています。



杉浦充宜さんファッションショー

11月16日、市内在住のファッションデザイナー杉浦充宜さんのファッション&トークショーを開催しました。情報館でのファッションショーは初の試みでしたが、約100名の方から参加していただきました。

「使われなくなった着物にもう一度息を吹き込む」をコンセプトに活躍の場を広げる杉浦さんの今回のテーマは「愛」。赤と黒が際立つ32点の作品が披露されました。公募されたモデルは16名。遠くは北海道から、杉浦さんの世界観を楽しもうという方たちが駆けつけてくれました。控室では互いに初対面とは思えない和やかな雰囲気でしたが、ショーの開始とともに凛とした表情に切り変わるのが印象的でした。

ご覧になった方からは「最高でした」、「杉浦さんってこんなに面白い、楽しいお話をされる方なのですね」という声が聞かれました。



スタッフによる日々の声をお伝えします

ねえ、きいて その51

10月27日から11月9日までは第78回読書週間でした。今年の標語は「この一行に逢いきた」でした。すてきなフレーズですね。

私が出逢えてよかったと思う一行に、平成27年の宮中歌会始での選歌があります。この年のお題「本」にちなんだ、「この本に全てがまつてるわけぢやないだから私が続きを生きる」という歌です。本を読み終えた時、こんな気持ちになったら強く前向きに進めるなぁと感じました。

平成という時代を映す多くの歌を収録した『宮中歌会始全歌集 歌がつむぐ平成の時代』（宮内庁／編、東京書籍）は、情報館と川西分室に所蔵があります。よかったら手に取ってみてください。

（川西分室・春日）



本のちから(9)

クリスマスに読みたい美しい絵本

『神の道化師』

トミー・デ・パオラ／さく、ゆあさふみえ／訳、ほるぷ出版
むかし、イタリアのジョバンニという貧しいみなしごの男の子がいました。なんでも空中に投げ上げてお手玉のように回すのが得意なジョバンニは、人気者の道化師になり、イタリア中をまわりました。どんなに偉い人の前でも、ジョバンニの曲芸は普段と変わることはありませんでした。

やがて時が過ぎ、年老いたジョバンニの曲芸を見ようとする人は誰もいなくなっていました。道化師をやめたジョバンニは、再び貧しい日々を送るようになり、故郷のソレントに帰ってきます。

クリスマスイブの日、ジョバンニは誰もいなくな

子ども読書活動推進コーディネーター

林 篤子



った教会で、自分にできるたった一つのささげ物として、道化師の衣装をまとい、イエス様への曲芸を披露します。全身全霊を込めたジョバンニの最後の曲芸は、素晴らしい奇跡を起こしたのです。

このお話はフランスで何百年も語りつがれてきた「聖母マリアの曲芸師」という話が元になっています。『ちいさな曲芸師バーナビー』（バーバラ・クーニー／再話・絵、末盛千枝子／訳、現代企画室）も同じ話が元になっています。

どちらも情報館1階の「子ども読書コーディネーターの本棚」にあります。子どもさんから大人まで、どなたにもおすすめです。心に残るクリスマスの1冊になれば嬉しいです。

スタッフのおすすめ本(佐藤)

『思わず考えちゃう』ヨシタケ シンスケ／著 新潮社

絵本作家のヨシタケシンスケさんは、いつも持ち歩くスケジュール帳に「思わず考えちゃったこと」をスケッチしているそうです。そのなかでも私が気に入っているのが、「明日やるよ。すごくやるよ。」という言葉です。

ヨシタケさんは、「明日すごいよ、明日すごいやるからね、っていう。でも今日もう、寝るけどね、っていう。自分を甘やかす時に、とっても便利な言葉です。」と書いています。私はどうしてもその日にやらなければいけないことが終わらず、どうしようもないとき、「あしたやる。…きっとやる。」と心の中で呟き、もやもやした気持ちのまま眠りについていました。ですが、「明日やるよ。すごくやるよ。」にかえてみたところ、ほんの少し気持ちが楽になり、寝つきがよくなりました。より今の自分が楽になれる言葉に出逢うことができよかったです。この本で、みなさんも自分を甘やかす言葉を見つけてみませんか？

(佐藤)



新着資料紹介 10月21日～11月20日分

【一般図書】

- 『積ん読の本』石井千湖／著 主婦と生活社(総記019イ)●『地獄の解剖図鑑』大角修／著 エクスナレッジ(哲学宗教 181オ)●『ゆるい場をつくる人々』石山恒貴／編著 学芸出版社(社会 361ダ)●『季節の兆しカレンダー』石田郷子／監修 ダイヤモンド社(自然 449キ)●『毎日続けたい潤いスープ』齋藤菜々子／著 文化学園文化出版局(中里 596サ)●『農家が教える田畑の排水術』農文協／編 農山漁村文化協会(産業 614ノ)●『手仕事の世界』有吉玉青／文 彩流社(芸術 750ア)●『文芸記者がいた!』川口則弘／著 本の雑誌社(文学 910.2カ)●『五葉のまつり』今村翔吾／著 新潮社(日文 913.6イ)●『そして誰もいなくなるのか』小松立人／著 東京創元社(松之山 913.6コ)●『みずもかえでも』関かおる／著 KADOKAWA(松代 913.6セ)●『作家とおしゃれ』平凡社編集部／編 平凡社(日文 914.6サ)●『ウォッチメーカーの罠』ジェフリー・ディーヴァー／著 文藝春秋(外文 933デ)

【児童図書】

- 『地べたから考える』レイディみかこ／著 筑摩書房(ティーンズ 302ブ)●『がんばれ! 田んぼマシーン』池田菜津美／文 新日本出版社(児童一般 614イ)●『ことばのはじまり!! 語源大図鑑』青山由紀／監修 国土社(児童一般 812コ)●『へんてこもりのころがりざか』たかどのほうこ／作・絵 偕成社(児童日文 913タ)●『王様のキャリー』まひる／著 講談社(児童日文 913マ)●『ねこのケーキヤさん』KORIRI／さく・え 金の星社(川治絵本 Eコ)●『たべられちゃうの? めんどりさん』キャロライン・ジェイン・チャーチ／え ひさかたチャイルド(松之山児童 Eチ)●『しぶがきくんがね...』とよたかずひこ／さく・え 童心社(赤ちゃん絵本 Eト)●『しずかなおきやくさま』アンナ・フォン／絵 光村教育図書(中里絵本 Eフ)●『あこがれの図書館』パトリシア・ポラッコ／作 さ・え・ら書房(絵本 Eポ)●『はたらく本屋』吉田亮人／写真 創元社(絵本 Eヨ)

【地域資料】

- 『新潟ラーメン100 月刊にいがた特別編集』ジョイフルタウン(新潟ガイド N596ニ)

年末年始 休館日のお知らせ

令和6年12月29日(日) ～令和7年1月3日(金)

※休館中の返却はブックポストをご利用ください。ただし、破損のおそれのあるCD・DVD・ビデオなどのAV資料、ポストに入らない大型絵本、相互貸借の資料などは、休館明けにカウンターで返却してください。



好評開催中！リサイクル本市

日時／11月26日(火)～12月15日(日)
会場／2階ギャラリーほか
料金／1冊50円(特別価格、セット価格もあります)

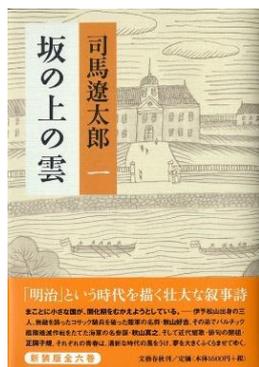
閉架書庫公開

12月15日(日) 午後2時～5時

申込みは当日1階カウンターでお願いします。
【今後の公開予定】2/23(日)、3/16(日)

第95回名作読書講座

『坂の上の雲』司馬遼太郎／著(文芸春秋)



明治時代、近代国家の仲間入りをした日本は息せき切って先進諸国に追いつこうとしていました。この時代を生きた四国松山出身の三人の男たち——ロシアでコサック騎兵を破った秋山好古、日本海海戦での参謀秋山真之兄弟と、文学の世界で巨大な足跡を遺した正岡子規——を中心に、昂揚の時代・明治の群像を描きます。

日程／12月19日(木) 午後7時30分～8時45分
会場／第1集会室 対象／中学生以上
定員／25人(申込み不要)

新春企画

本を借りれば福がくる

本を借りると福笑いセットがもらえます。数量限定につき、お早めどうぞ！

期間／1月4日(土)～12日(日)
※なくなり次第終了

場所／1階児童コーナー、川西分室、松代分室
対象／小学生まで



小千谷市ひと・まち・文化共創拠点

「ホントカ。」

十日町市民も利用登録することができます。

◇利用できるサービス

- 図書館資料の貸出 ●予約(所蔵のある資料)
- インターネットサービス など

◇登録方法

利用登録条件を確認できるもの(運転免許証、マイナンバーカード、社員証、学生証など)をお持ちのうえ、「ホントカ。」で登録手続きをお願いします。

小千谷市ひと・まち・文化拠点「ホントカ。」

- 所在地／小千谷市本町1-13-35
- 開館時間／午前9時～午後10時
- 休館日／第2・第4火曜日、年末年始(12/29～1/3)
- 電話／0258-82-2724

※小千谷市民も十日町情報館の利用登録をすることができます。詳しくは各施設のホームページ等でご確認ください。

12月のおはなし会

◆情報館

- 7日(土)・14日(土)
／おはなしびよびよ(乳幼児)
- 21日(土)／読み聞かせの会 どんぐり
(幼児～小学校低学年)
- 28日(土)／おはなし「たまたまぼこ」(乳幼児)



◆川西分室

- 21日(土)／おはなしの会「ふきのとう」
(乳幼児～小学校3年生くらい)



◆松代分室

- 14日(土)／おはなしたんぽぽ(幼児～小学校低学年)

その他の催し

●明石学級写真コース 写真展示会

日時／12月19日(木)～25日(水)
※23日は休館日、25日は午後1時まで
会場／ギャラリー 入場／無料



資料保護のお願い

本やCD・DVDなどは室内と屋外の温度差により結露し、故障や劣化につながるおそれがあります。また雨や雪で濡れた本は、利用ができなくなる場合もあります。屋外での持ち運びには、バッグや袋に入れるなどの保護をお願いします。

12月の開館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時
休館日 第2・第4月曜日(当分の間)
特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)

十日町情報館

〒948-0072 西本町二丁目1-1
電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103